

## 医学教育分野別評価 旭川医科大学医学部医学科 年次報告書

2021（令和3）年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.3

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

### はじめに

2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染の蔓延により、講義・実習は大きな影響を受けたが、学修支援システムおよびZoomを使用したオンライン講義やオンライン臨床実習プログラムを取り入れつつ、教育活動を行った。2021（令和3）年度以降も、少なくとも部分的にオンライン授業を継続せざるを得ない見込みであり、新しい形の学修方式の利点および限界を慎重に評価する必要がある。このような状況であるため、2021（令和3）年度に実施予定であった新カリキュラムの開始を延期し、コロナ禍においても有効に機能するカリキュラムを新カリキュラム検討ワーキンググループで検討している。本学全体の教育・研究体制の改善については、分野別評価専門部会において議論し、学科内における教育・研究に関する責任者（会議）、指揮命令系統の明確化を進めており、学科長および専攻長を置き、規定を整備する予定である。本年次報告書においては、カリキュラム部門会議や教育プログラム評価委員会への学生の参加、成績に関する異議申立て制度の導入、マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表の作成など、教育改善のための本学の現在の取り組みを報告する。

### 1. 使命と学修成果

本学の点検評価室の下に設置した分野別評価専門部会において、開学50周年となる2023（令和5）年度からの改訂に向けて継続的な改善を議論していく予定である。使命と学修成果の策定に当たり、学外者を含め広い範囲の教育関係者から意見を聴取するように努めていきたい。また、学生の適切な行動を盛り込むための学則や行動規範の改正についても検討を進めていく。

#### 1.1 使命

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 学則第1条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第3期中期計画（2016年）に大学の使命を見直している。

##### 改善のための助言

- ・ 学則第1条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第3期中期計画（2016年）の使命の見直しの経過を明

示し、この使命の見直しが、社会からの保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、および社会的責任とどのような関連があったのかを説明すべきである。

- ・ 使命では、卒前教育が卒後の教育への準備であることを学生が理解できるように記載すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

使命と学修成果の改善にあたっては、学外者を含めステークホルダーの意見や期待を聞きつつ検討していく必要がある。今後その機会を設けていくこととしており、ステークホルダーの意見等を踏まえ、開学50周年となる2023（令和5）年度からの改善に向け学内で着実に検討を重ねていく（資料1）。

### **改善状況を示す根拠資料**

資料1 令和2年度第4回分野別評価専門部会議事要旨

質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由・・・指摘事項等無し

### **1.3 学修成果**

#### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよび「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」がともに5つの柱から構成され、この3つの方針の間の整合性が図られている。

#### **改善のための助言**

- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを学則・行動規範に記載すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

1.1の基本的水準と同様の状況

### **改善状況を示す根拠資料**

同上

#### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 国際保健に関して目指す学修成果をディプロマ・ポリシーや「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」に記載することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1.1の基本的水準と同様の状況

### 改善状況を示す根拠資料

同上

## 1.4 使命と成果策定への参画

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 使命の見直しや学修成果の策定には、職員、学生代表、管理運営者ならびに関連省庁を含めるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1.1の基本的水準と同様の状況

### 改善状況を示す根拠資料

同上

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 地域に密着し、地域の医療課題を解決するという開学時の使命とその使命を果たすための学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1.1の基本的水準と同様の状況

### 改善状況を示す根拠資料

同上

## 2. 教育プログラム

新型コロナウイルス感染の発生に伴い、教務関連新型コロナウイルス対策会議、教育センターカリキュラム部門会議、教育センター臨床実習部門会議において現行カリキュラムを、この環境下で実行可能なものに大幅に変更して実施した。

### 2.1 プログラムの構成

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 定期的カリキュラムを見直し、「医学科2009カリキュラム」、「医学科2015カリキュラム」を導入し、改善を継続していることは評価できる。
- ・ 「医学チュートリアル（I～V）」を低学年から継続的に実施していることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

科目全てで、学生から2020（令和2）年度のオンライン主体授業の企画立案・実行に対する評価を受けた（資料2）。オンライン授業は次年度も継続される見込みであり、アンケート結果を受けて、授業の改善を図る予定である。このような状況で、2021（令和3）年実施予定であった新カリキュラム策定は延期することとした。現段階では2022（令和4）年あるいは2023（令和5）年開始を目指して、新カリキュラム検討ワーキンググループで、コロナ禍で実施可能な教育プログラムを考慮に入れて検討を開始している（資料3）。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料2 2020年度企画に対する授業評価

資料3 医学科2021カリキュラム検討ワーキンググループ会議議事要旨（第5回、第6回）

##### 質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 2.2 科学的方法

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 臨床実習において、EBMに基づく医療の実践を教育すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020（令和2）年度の臨床実習は新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、対面実習とオンライン実習を併用することになった。また対面実習も、既存のプログラムから大幅に変更となり、患者に接する実習はほとんど行われなかった。このような対応

により、学生の症例プレゼンテーションや実習レポートについては、UpToDate等を使用し、EBMに基づいた発表を行わせるという計画は、実施が不十分に終わった。教育センター臨床実習部門会議において、現状の臨床実習におけるEBM教育の実践状況についてアンケート調査を行うことを決定し、実施した（資料4）。この結果を踏まえて次年度は、コロナ禍で実施できる臨床実習でEBMをどのように実践・教育していくかの検討をしている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料4 臨床実習EBMに関するアンケート

質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 2.3 基礎医学

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和4）年あるいは2023（令和5）年を目指した新カリキュラム検討ワーキンググループで、基礎医学で臨床医学を習得・応用するのに必要な能力を身につけさせるための教育プログラムについて検討を進めていく。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 低学年から行われている行動科学教育の繋がりを学生が理解し、その学修内容を臨床実習に活かすべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育関連病院での臨床実習がほぼ中止となったため、当初計画していた一部実習病院での検診の結果説明等の行動科学教育の実践が中止となった。また学外の教育施設でいかなる行動科学教育が可能であるかを、学外実習施設教育担当者会議を開催し調査する予定を立てていたが、新型コロナウイルス感染症が教育関連病院で発生したため、中止

とせざるを得なかった。次年度はまず学外実習施設教育担当者会議を開催して、2019（令和元）年度の計画を進めていく。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが今後も続くことを考慮して、オンラインで行動科学教育ができないかを教育センター臨床実習部門会議で検討していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

#### 質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 2.5 臨床医学と技能

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 重要な診療科において、同じ医療チームで4週間以上の診療参加型臨床実習を組み、臨床現場でスタッフや患者、家族から学生が学べる環境を整えるべきである。
- ・ BSL、診療参加型臨床実習、「アドバンス臨床実習」と段階的に学生が患者診療への貢献を確実に高めていくべきである。
- ・ 臨床実習ですべての学生が健康増進と予防医学の体験ができるよう臨床実習カリキュラムを構築すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍で、臨床実習はオンライン化され、また短期間のみ対面で行われることになった。そのためコア科でも実習期間は最長2週で、厳密な意味でのCCSは実施できなかった。今後もオンライン実習期間が長期にわたることが予想されたため、双方向性を担保して、オンラインでCCSをシミュレートするオンライン臨床実習プログラム（コア科）を「まなびのデザイン社」から購入し、すでに使用を開始している（資料5）。2021（令和3）年度でもオンライン実習を行わなければならないと思われるので、新しく稼動しているオンライン実習に対するアンケートを、学生とそれに携わるチューター教員に行い、結果を検討することにより、随時改善を図っていく。2019（令和元）年度、臨床実習でいかなる予防医学の経験ができるかについて、学外実習施設に対して調査を行うことを決めていたが、コロナ禍で予定していた学外実習施設教育担当者会議を延期することになり、調査が実行できなかった。次年度にこの会議を開催して、調査を開始する予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料5 オンライン臨床実習説明資料

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 低学年から継続的に患者と接する機会を十分に持ち、患者診療への参画を徐々に深めていくことが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍で2021カリキュラム検討ワーキンググループにおいて、新カリキュラムの開始時期を延期した。2019（令和元）年度の計画として社会学実習を3年次に行い、患者と接する機会を設ける方針とし、またその準備として、1年次に症候学（座学、グループワーク、ロールプレイ）を新規に開講する方針としたが、コロナ禍では対面で実習を行えるかどうか不確定であり、新カリキュラム検討ワーキンググループにおいて、この時代にどのような方法で患者診療への参画を継続的に行っていくかを検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

## 2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準・・・指摘事項等無し

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 基礎医学、社会医学および臨床医学の教育における水平的統合や垂直的統合を行い、カリキュラムの過密化を是正し、学生が理解しやすい学びを構築することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新型コロナウイルス感染症という全く予想外の事象により、教育方法が大きく強制的に変更された。このため2021（令和3）年から新カリキュラムを開始することは不可能と2021カリキュラム検討ワーキンググループで判断された。開始が延期された新カリキュラム検討ワーキンググループで、どのような水平的統合や垂直的統合が可能であるか、カリキュラムの過密化をいかに改善させていくかを昨年度の新カリキュラムのたたき台をもとに検討している。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

## 2.7 プログラム管理

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 教育方法、学修方法、学生評価およびカリキュラムの立案と実施を行う責任組織（カリキュラム委員会）を明確にし、その組織に学生の代表を含むべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム部門会議（資料6）、教育プログラム評価委員会（資料7）等に学生が参加し、議論に加わっている。学生の意見を参考にして、新カリキュラム策定を進めていく。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料6 令和2年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨抜粋
- 資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 教育の広い範囲の関係者をカリキュラム部門会議などの正式な委員とすることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム部門会議は、学生を委員として加えている。また教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所所長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、教育プログラム評価を行った（資料7）。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 卒前教育から卒後研修に至るコンピテンシーの連続性や、段階的な達成度を示すカリキュラムなど、連携を適切に行うべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021カリキュラムの開始延期に伴い、2016（平成28）年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムと本学の臨床研修の到達目標との整合については、延期された新カリキュラムにおいて対応することとして、現在検討中である。

5年生に対してEPOC2の使用トライアルを開始する予定であったが、コロナ禍で参加型臨床実習自体がほぼ実施できなくなったことから、これは進められていない。トライ



アル開始については、感染状況を踏まえて教育センター臨床実習部門会議で検討を進めていく。本学の2年目研修医に対して個別面談を行い、研修プログラムに欠けている点や、研修希望について調査を行い、要望をまとめた（資料8）。内科部門では専門科だけではなく、総合的に見られる部門が欲しい、外来診療を研修する部門が欲しい、もっと薬剤部、リハビリテーション部、検査部のコメディカルの活動を理解したいというものがああり、実現可能か卒後臨床研修センターで検討することになった。また教育センター・卒後臨床研修センターで、研修医の医療面接の能力の向上を図るために、SPを使った医療面接研修を開始した。次年度からはこれを本学病院の研修プログラムとして必須のものとして、さらに発展させることとした（資料9）。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料8 卒後臨床研修センターR2研修医面談結果一覧（部外秘）

資料9 令和2年度卒後臨床研修センター打合せまとめ

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 地域や社会からの意見を収集し、プログラムに反映させる制度の確立が望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所所長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、教育プログラム評価を行った（資料7）。これを参考にして、新しい教育プログラムを作成していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

### 3. 学生の評価

指摘された項目に対する改善方法について、学内の各部会（教育センターカリキュラム部門会議、FD・授業評価部門会議）で検討を行い、改善を推進するための調査やFD等を行っている。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 2018年9月に学生評価・評定についてのポリシーを作成したことは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 知識、技能および態度を確実に評価し、それを学年ごとに積み上げ、学生一人ひとりの成長をモニタすべきである。
- ・ 様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように体制を整備すべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を確実に用いるべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アセスメントポリシーが実行されているかの調査を行った（資料10）。その集計結果を踏まえて、FDを2回に渡り実施し、90人が参加した（資料11）。今後もさらなる学内周知を図っていく。また一部実情に合っていないポリシーがあることも確認されたので、その改善も図っていく。3大学共通の新しいCCS評価表を導入して、現在運用中であるが、対面の臨床実習はほとんど行われなかったため、今後オンライン実習の評価のあり方についても、臨床実習部門会議を中心に検討していく。

教員のLMS使用の普及を図り、全ての授業でLMSが使用されるようになった。またこれにより、レポートや小テストの成績等が全てポートフォリオに記録されるようになり、学生本人と教員が、学生一人一人の成長度をモニターすることが可能となった。評価の利益相反については、全ての試験では文書化されていないので、段階的に整備していく予定である。外部の専門家による評価については、本学でどのようなことが可能かを検討していく。異議申し立て制度の実施状況については、大学として整備することを決定し、次年度から一部稼働させることとした（資料12）。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料10 アセスメントポリシーのアンケート集計結果

資料11 FD（本学における卒業時到達目標・コンピテンシーとアセスメントポリシーについて）

資料12 異議申し立て制度資料

##### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 新しい評価法として北海道内3大学医学部共通のルーブリック評価表を導入したことは評価できる。

### 改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性の検証をさらに進め、明示することが望まれる。
- ・ 学生の評価全般について、外部評価者の活用を進めることが望まれる。
- ・ 臨床実習の評価として、MiniCEXなどの現場での評価の導入を検討することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍でオンライン授業が多く実施され、その場合における評価方法の信頼性と妥当性は全く検証されていない。これらは単年度ではなく、複数年度あるいは国家試験やCBTの試験結果と比較して行っていく必要があると思われる。これは評価のみでなく、オンライン授業の可能性や限界を検証することになる。外部の専門家による評価については、コロナ禍でいかなる組織を作るかを含めて検討していく。臨床実習の評価はEPOC 2で将来行うことも考慮して、検討を進めていく。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ コンピテンシー達成のための3段階のマイルストーンを策定したことは評価できる。

### 改善のための助言

- ・ 評価が、目標とする学修成果と教育方法に整合していることを検証すべきである。
- ・ 学生の学修をいっそう促進する評価を実施すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価との比率を検討すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業時コンピテンシー・マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表を作成した（資料13）。一部、目標とする学習成果が授業科目により担保されていないことを確認し、その結果を、延期された新カリキュラム編成の検討材料として進めていく。アセスメントポリシーが実行されているかの調査結果（資料10）から、そのさらなる普及を図る必要性が指摘されたため、FDを実施した（資料11）。今後も学内周知に務めていく。レポート課題の実態調査で、フィードバックを行っている科目が充分でないことから、レポートが学生の学修を促進する評価手段になっていない可能性を指摘した（資料14）。今後過剰な課題レポートの中止や、レポートによる科目評価比率の再検討を科目担当者に依頼して改善を図っていく。形成的評価と総括的評価の比率については、オンライン授業主体となったため、全ての授業科目でLMSが使用されることになり、シラバスに形成的評価と総括的評価との比率をLMSに明示するように学内で統一した。出席確認のための小テストで形成的評価を行い、総括的評価として対面で行う試験（一部はオンライン試験）を実施し、小テストの評価比率を30%程度にした。次年度は、上記の実施状況、改善状況を調査する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料13 マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表

資料10 アセスメントポリシーのアンケート集計結果

資料11 FD（本学における卒業時到達目標・コンピテンシーとアセスメントポリシーについて）

資料14 レポート課題調査報告用データ

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 学生に対する総括的評価や形成的評価の結果に基づいた時機を得た具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、すべての学生の学修を確実にすることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

レポートは上述のとおり、フィードバックが充分されていないことが明らかになった。フィードバックをしないレポート課題は廃止も含めて科目担当者と協議を続けていく。試験問題と正答の開示が、全ての科目で行われておらず、必然的にこれらでは試験結果に対するフィードバックが行われていない。次年度は開示を行うと共に、異議申し立て制度の稼働を開始する（資料12）。臨床実習においては、各コースでの学生評価は開示されておらず、総括的に臨床実習としての成績のみが開示されている。これより現状では時期を得たフィードバックが充分なされていないと考えられるので、コースの成績開示に向けて臨床実習部門会議等で検討を進める。

### 改善状況を示す根拠資料

資料12 異議申し立て制度資料

#### 4. 学生

地域に開かれた入学者選抜を実践するため、医学科推薦入試において、2020（令和2）年度入学者選抜試験から学外面接員制度を導入している。また、学生カウンセリングについては保健管理センターで情報保存を電子化するためのシステムを導入するなど、可能なものからスピード感を持って対応するとともに、特にコロナ禍において学生との対面が困難であることを踏まえて、教育センター教員による電話対応なども行なった。

その他の事項については、評価から改善に関する事項の整理、課題への対応及びその進捗を全学的、一元的に管理する分野別評価専門部会を中心に担当組織（各センター等）において検討している。

##### 4.1 入学方針と入学選抜

###### 基本的水準

###### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域の状況に合わせて入学方針が決められ、入学選抜が行われていることは評価できる。

###### 改善のための助言

- ・ なし

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜から学部教育、卒後臨床研修に至る教育指導にかかる連携強化を目的として2019（令和元）年度に設置した「地域共生医育統合センター」（2020（令和2）年5月 医育統合センターから名称変更）をはじめ、関係各部門が、地域に開かれた大学であるための取り組みを推進している。その一環として、地域社会の要請に応えた入学者選抜を実施するために、2019（令和元）年11月実施の2020（令和2）年度医学科推薦入試において、学外面接員制度を導入した。2020（令和2）年実施の2021（令和3）年度入試では、コロナ禍にあり、学外面接員の導入は行えなかった。2021（令和3）年実施の2022（令和4）年度入試においては再開する予定である。

###### 改善状況を示す根拠資料

なし

###### 質的向上のための水準

###### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

###### 改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を明示することが望まれる。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020（令和2）年実施の入試から成績開示請求における受験者への開示資料の中で疑義申し立ての方法等を追記することとした。

## 改善状況を示す根拠資料

なし

### 4.2 学生の受け入れ・・・指摘事項等無し

### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 保健管理センターが、学生支援に貢献していることを実地調査で確認した。保健管理センターの学生支援活動は評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実し、学修困難な学生を早期から支援する体制を整えるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍で対面学習が不可能になり、特に6学年では8月まで授業は全て中止で自己学習となったため、精神的な面を含めた問題が生じることが予想されたことから、4月に教育センター教員が30名ほどの学生に直接電話で問題がないかを確認した。1学年も学生同士が対面しないうちにオンライン授業が始まったため、大学生生活に馴染めず学修に問題を生じる可能性が考慮された。授業科目責任者と学年担当が連絡を取り合うことで、この問題に対応した。教育センター教員と卒業試験不合格学生との面談で、精神的な問題を抱え高学年まで適切な医療を受けずに経過して、成績不良の主要な原因となっている学生が複数名存在することが明らかとなり、精神的な問題を抱える学生に対して専門的にサポートする体制の構築に向けて、教務・厚生委員会で検討を行った（資料15）。次年度はサポート体制の構築に向けて、具体的に検討・整備を進めていく。具体的にはカウンセラーの雇用を行い、学生はもちろん、本学の臨床研修医、職員を対象にした支援・カウンセリング制度の確立を目指していくことが、分野別評価専門部会で確認された（資料1）。

## 改善状況を示す根拠資料

資料15 令和2年度第13回教務・厚生委員会議事要旨 抜粋

資料1 令和2年度第4回分野別評価専門部会議事要旨

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）の活動が学部学生へも浸透しつつある。

#### 改善のための示唆

- ・ 学年全般にわたり、学生の教育進度に基づいた学修上のカウンセリングを提供することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医師国家試験模擬試験下位学生の希望者に対して呼び出し指導を教育センターで行った。成績不良者は多かれ少なかれ精神的な問題を抱えていることが解り、その全てに対して精神科的な医療が必要なわけではないが、医療が必要な者に対してそれを勧める体制が構築されていない。その構築に向けて、次年度は準備を進めていく。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

#### 4.4 学生の参加

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 学生の代表が各種委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育センターカリキュラム部門会議に学生が参加できることを規定（資料16）し、実際に議論に加わっている（資料6）。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料16 旭川医科大学教育センター規程

資料6 令和2年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨 抜粋

質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

## 5. 教員

教員間、教員と一般職員のバランスについての指摘を受け、今後は教育センター会議でもこの点についての議論を進め、上位会議へ積極的に提案していく。また、教員の選考方針についてもより明確な基準を策定する。さらに教育センターを中心に、教員の教育に対する意識の向上の能力開発をはかるためのFD、説明会、講演会をより積極的に実施していく。

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定すべきである。その方針には、医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランス、基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを含むべきである。また、教育、研究、診療の役割のバランス、業績の判定水準を明示すべきである。さらに、教員の責任を明示し、その活動をモニタしていることを記載すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の授業科目において、担当教員が果たすべき教育内容は、シラバスに明示している。なお、教育理念を具現化するための効果的なカリキュラム編成により、医療社会学の教員を配置し、1年次一般教育のカリキュラムに関しては、充実している。今後は、検討のための参考材料として他大学における配置バランスを調査し、教育センター会議等で教員のバランス・改善等を検討のうえ、教育研究評議会等に提案していきたい。

##### 改善状況を示す根拠資料

なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定し、そのポリシーには、その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性を示すことが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

選考方針は、人物評価、教育、研究、診療、社会貢献実績等を総合的に評価し勘案している。今後は、検討のための参考材料として他大学の選抜方針を調査し、より明確な選抜方針の策定について検討していきたい。



### 改善状況を示す根拠資料

なし

## 5.2 教員の活動と能力開発

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 各講座・医局に訪問して行うFDを実施していたことを実地調査で確認した。この活動は多くの教員に教育プログラムを周知させる活動として評価できる。
- ・ FDを頻回に開催し、教員の活動と能力開発の機会を提供している。

#### 改善のための助言

- ・ 個々の教員がカリキュラムの全体を十分に理解し、カリキュラムの中で自身の教育活動の位置づけに関して理解できるように、FDを継続して実施すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業時コンピテンシー・マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表を作成して学内に公開しFDを2回開催した（資料11）。今後はこれについてさらなる周知を行い、新カリキュラム策定につなげていく。コロナ禍であったためFDの開催は減少したが、良い試験問題の作り方については、オンラインで教員、各講座の事務向けに分けてFDを行った（資料17）。今後もこれまでの教育関連FDを継続する予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

資料11 FD（本学における卒業時到達目標・コンピテンシーとアセスメントポリシーについて）

資料17 FD（よい客観試験問題の作り方）

質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

## 6. 教育資源

特記すべき良い点として評価を受けた「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」に基づいた施設・設備の継続的な改善については、今後も計画的な整備を行っていくとともに、新型コロナウイルス拡大等を含む災害への対応についても検討する。その一環として、オンライン授業に対応できる様に、Wi-Fiなど学内通信環境の整備を行なった。

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」に沿った情報通信技術の倫理的活用については、点検、訓練などを定期的に行い情報セキュリティの向上を図っている。

また、改善点として指摘を受けた、学外臨床実習病院・施設が学修成果獲得のための教育資源として適切かどうかについて、プライマリ・ケアの経験の可否、地域住民・患者の医療ニーズへの対応などの視点も含め、各施設の患者数と疾患分類の調査を2021（令和3）年度に開始する。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」が策定され、それに基づいて施設・設備が継続的に改善されている。

##### 改善のための助言

- ・ 災害対策について、学生と教職員が協働するための訓練を行うべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

キャンパスマスタープラン2016の整備行動計画及び2019（令和元）年度に策定したインフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき現状を調査した上で、必要に応じて見直し、今後も計画的な施設整備を行っていく。また、学生を含めた災害訓練の実施については、今後、関連委員会において、検討することとした。

加えて、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、職員・患者・学生の生命を最大限守りつつ、学生教育を行う方法について検討を行い実施してきた。分散登校や在宅での動画配信授業も考慮し、回線状況の調査、接続トライアルを訓練としてまず行い、Wi-Fiを増強し大学の通信設備の整備を行い、自宅での通信環境の確保ができなかった学生に対して、学内での設備使用を認めた。現在、全ての授業がLMSならびにリアルタイム双方向配信を使用したオンラインで行われている。今後は新型コロナウイルス感染症を含む災害に対処するために、地震や火災だけではない多様化する災害に留意した訓練を行えるよう検討する。

##### 改善状況を示す根拠資料

なし

##### 質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 6.2 臨床トレーニングの資源

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 学外臨床実習病院・施設の患者数と疾患分類を把握し、学修成果獲得のための教育資源として適切かどうかを検討すべきである。
- ・ プライマリ・ケアを経験できる臨床実習病院・施設を確保すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外実習施設での患者数と疾患分類の調査を行うべく、その説明と依頼を目的とした学外実習施設教育担当者会議を開催する予定であったが、コロナ禍のため開催予定が2度延期された。次年度はまずこの会議を開催して調査に着手する。学生が受け持った症例についても調査を行うことを臨床実習部門会議で決定しているが、コロナ禍で参加型臨床実習自体が行えず、この調査は実行されていない。次年度は実施される臨床実習の形（オンラインか対面か、大学病院で行うのか、実習関連病院で行うのか）に応じて、どのような調査を行うのかについても検討していく。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 臨床実習病院・施設について、地域住民・患者の医療ニーズに対応しているかどうかの視点で評価することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6.2の基本的水準と同様の状況

### 改善状況を示す根拠資料

同上

## 6.3 情報通信技術

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 情報通信技術を倫理面に配慮して、適切に活用するための「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」を策定し、定期的に点検・評価を実施している。

### 改善のための助言

- ・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」については、定期的に見直しを図っている。また、2019（令和元）年9月に策定した「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に則り、本学の情報セキュリティ対策を実施している。2020（令和2）年度においては

以下の対策を実施した。

- ・ [2020/9] 情報資産格付け基準及び取扱い手順の策定
- ・ [2020/12] 文部科学省による脆弱性診断(ペネトレーションテスト)実施
- ・ [2020/12] 外部講師に依頼し情報セキュリティ講演会をオンライン開催
- ・ [2021/2] 情報セキュリティの啓発活動としてリーフレットの作成・配布の実施
- ・ セキュリティ・IT人材の育成として担当者が学外研修・演習に参加

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

#### 質的向上のための水準

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.33の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- ・ 教員および学生が以下の事項についての既存のICTや新しく改良されたICTを  
使えるようにすべきである。(Q 6.3)

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生が電子カルテに記載し、適正に指導医の監督を受けていることは評価できる。

#### 改善のための示唆

- ・ 臨床実習において、医療チームが学生に連絡を取れる体制を作ることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内で使用されていたPHSを学生が使用できるか検討したが、PHSは新たな使用用途があり、困難であることが判明した。臨床系教員でこれまでほとんど使用されていなかったLMSは、FDを集中的に行い全面的に使用されることになった。現在はこのLMSを使用した学生の連絡体制が構築された。次年度はLMSを中心とした連絡体制に、問題がないか検証していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

### 6.4 医学研究と学識・・・指摘事項無し

### 6.5 教育専門家

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育センターに専任教員が配置され、カリキュラム開発や教育技法、および評価方法の開発を支援している。

#### 改善のための助言

- ・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

これまで普及度が高くなかったLMSについては、教育センター主導で集中的にFDを行い、コロナ禍でのオンライン授業に備えて使用率100%の普及を図った。さらにZoomを使用したオンライン授業も導入し、現在はLMSと併用し、リアルタイムの双方向性授業を担保している。PBL、TBLも新しい試みとして、対面授業を避けてLMS、Zoomで全て実施した。またOSCEに関しても医療面接にZoomを使用して、SP、学生の感染リスクを最小限に抑えて実施した。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

### 質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 学生の国際交流に関する窓口を整え、国外留学のサポート体制を整備すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍のため、学生の国際交流については実施できていない。担当教員の明確化や専任の事務職員を配置するなど体制整備を引き続き図っていくこととする。

### 改善状況を示す根拠資料

なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 教職員と学生の国内外の交流を促進することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍のため、学生の国際交流については実施できていない。

### 改善状況を示す根拠資料

資料なし

## 7. プログラム評価

指摘された項目に対する改善方法について、学内の各部会（IR教育部門会議、教育センターカリキュラム部門会議、カリキュラム検討ワーキング）で検討を行い、改善を推進するための調査、準備が行われている。

### 7.1 プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを実働すべきである。
- ・ カリキュラムとその構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点からプログラムを評価すべきである。
- ・ 評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表を調査作成した（資料13）。これより本学の授業科目で不十分なところを解析し、新カリキュラムに反映させる。また教育プログラム評価委員会を開催し、評価を受けた。今後は年1回の頻度で評価を受ける予定である。今年度はコロナ禍のために、プログラムの大幅な変更を余儀なくされたが、授業アンケートは年度末に実施しており、次年度はその結果を解析して、このような状況に対応したプログラム策定・改善を実施していく。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料13 マイルストーンの科目別達成レベルマトリックス表

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任など、プログラムを定期的かつ包括的に評価することが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所所長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、教育プログラム評価を受けた（資料7）。これを参考にして、新しい教育プログラムを作成していく。外部評価者によるプログラム評価は、今後は毎年実施することとし、定期的に包括的な評価を受ける予定である。

## 改善状況を示す根拠資料

資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業時に学生や保護者を対象にアンケート調査を行い、教員にフィードバックしている。

#### 改善のための助言

- ・ 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生部門員も参加する教育センターカリキュラム部門会議を開催し、学生から今年度のオンライン授業に対する意見を聴取した（資料6）。また各科目全てで、学生から企画立案・実行に対する評価を受け（資料2）、それを科目コーディネーターにフィードバックした。科目コーディネーターはそれに対するコメントを例年どおり学生・保護者に対して開示することとした（開示は2021（令和3）年度）。次年度はそれらを可能な部分で反映させ、現行カリキュラムをブラッシュアップして実施する。教員からのフィードバックはカリキュラム部門会議メンバーがそれぞれ所属する部門（一般教育・基礎医学・臨床医学）の会議や個別相談などを経て、教育センターカリキュラム部門会議で得ている。さらに新カリキュラム検討ワーキンググループでは一般教育・基礎医学・臨床医学の各部門代表者から新カリキュラムへの意見を集約している（資料3）。次年度はこれらを受けて、新カリキュラムの策定に向けて検討をさらに進め、できる限り早期に新カリキュラムを策定する予定である。

## 改善状況を示す根拠資料

資料6 令和2年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨抜粋

資料2 2020年度企画に対する授業評価

資料3 医学科2021カリキュラム検討ワーキンググループ会議議事要旨（第5回、第6回）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを改善することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生、教員からのフィードバックを基に、次年度は新カリキュラム策定をすすめる。

## 改善状況を示す根拠資料

なし

### 7.3 学生と卒業生の実績

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生の道内定着率や研究業績調査を実施していることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学が教育の理念に示している「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者の育成」という使命が、果たされているかどうか、第1回「卒後の活動に関する調査」を2019（令和元）年12月から2020（令和2）年1月に実施した。調査結果は2020（令和2）年9月にIR室から学内限定版（資料18）とWebページで公開する概要版（資料19）の2種類を発行している。概要版は第2回卒業生調査の調査票に同梱し、卒業生への周知を試みている。第1回「卒後の活動に関する調査」では、現在仕事をする上では語学力（44.8%）や論文作成能力（32.7%）が不足しているとの回答を得ることができた。さらに第2回「卒後の活動に関する調査」は2020（令和2）年12月から2021（令和3）年1月にかけて行われている。

高大病連携事業は、入試枠に合わせて、本学が活動を直接実施する地域を道北・道東に限定することとして継続した（資料20、21、22、23、24）。

##### 改善状況を示す根拠資料

- 資料18 第1回卒後の活動に関する調査結果（学内限定）
- 資料19 第1回卒後の活動に関する調査結果概要
- 資料20 2020年度室蘭栄グループワーク
- 資料21 2020年帯広柏葉実施要領（学内限定）
- 資料22 令和2年度道東三域メディカル交流会実施要領（学内限定）
- 資料23 函館地区医療体験報告会タイムスケジュール
- 資料24 2020年高大病連携活動状況

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 背景と状況、入学時成績に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績の分析を使用し、学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室で入試区分と学生成績の関連分析を行った（資料25）。

##### 改善状況を示す根拠資料

- 資料25 入試区分と学生成績の関連分析Ver. 2（学内限定）



## 7.4 教育の関係者の関与

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ プログラムのモニタと評価に学生など、主な教育の関係者を含めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所所長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、教育プログラム評価を行った（資料7）。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 他の関連する教育の関係者に、課程およびプログラムの評価の結果を開示し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育関連病院担当者会議を開催予定であったが、コロナ禍で中止された。次年度はオンラインで会議を行い、自己点検評価を説明しフィードバックを受ける予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

## 8. 統轄および管理運営

現在、分野別評価専門部会において、教学のリーダーシップが十分に発揮できるような体制の整備について検討しており、引き続き議論していく。教育センター、教育研究評議会、大学運営会議、教授会などの役割を明確にし、教育やカリキュラムの改善に向けてより速やかに対応できるようにしていきたい。

### 8.1 統轄

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 統轄する組織として、教育センターとその下部組織である部門や、教務・厚生委員会などの組織の大学内での位置づけを明確にし、それぞれの規程を作成し、役割と権限を明確化すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

指摘を受けた事項を踏まえ、学科内における教育研究に関する責任者（会議）、指揮命令系統を明確にするため学科長を置くこととし、規定を整備する予定である（資料26）。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料26 教育研究上の基本組織一覧

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 学生や患者などの教育の関係者を構成員とする組織を整備し、主な教育の関係者やその他の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。
- ・ 統轄業務とその決定事項の透明性を確保することが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会（資料7）等、学外委員を含む委員会等を定期的で開催する。また、学科内における教育研究に関する責任者（会議）、指揮命令系統を明確にするため学科長を置くこととし、規定を整備する予定である（資料26）。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

資料26 教育研究上の基本組織一覧

## 8.2 教学のリーダーシップ

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学長、副学長、教育センター長、教授会メンバーなどの教学のリーダーシップの責務を明確にすべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

8.1の基本的水準の改善状況等と同様

#### 改善状況を示す根拠資料

同上

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 学長、副学長、教授会、教育センター長およびその部門、教学関係の委員会などにおける教学のリーダーシップの評価を使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

8.1の基本的水準の改善状況等と同様

#### 改善状況を示す根拠資料

同上

## 8.3 教育予算と資源配分

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ カリキュラムを確実に遂行するために教育予算を組み、その執行を組織として管理すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

予算は、当該年度に係る予算編成方針に基づき、財務委員会の議を経て、経営協議会、役員会において審議・決定の後、執行される。

教育予算は、教務経費、学外実習経費、非常勤講師、共用試験、教育環境等整備費、学生指導等の経費に分かれており、事務局学生支援課において執行管理している。

また、教育研究基盤経費は、講座等が必要とする教育関係の設備・備品購入の財源であ

り、講座等からの要望について、教務・厚生委員会委員長である教育担当副学長が、緊急性や整備計画等を踏まえて調整する。当該年度の購入は、教務・厚生委員会に報告している。引き続き、教育予算の執行及び決算報告のあり方について検討する。

#### 改善状況を示す根拠資料

なし

#### 質的向上のための水準・・・指摘事項等無し

### 8.4 事務と運営

#### 基本的水準

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.33の内容は以下のとおりである。

#### 医学部は

- ・ 以下を行うのに適した**事務職員**および**専門職員**を配置しなければならない。

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育プログラムと関連する活動を支援するため、必要な事務組織および専門組織を設置し、適切な人材を配置し、運営のための資源を適切に配分していることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育を担当する部長級職員が同時に教育に関する人事や予算を掌理できるようにするため事務局組織を改組し、次長制に改めた。各課においては部制を廃止したところから部の垣根を超える調整が不要となり、より円滑な調整ができるものと期待している（資料27）。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料27 事務局組織の改組（案）

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 管理運営を「中期目標・中期計画・年度計画」の点検・評価により、定期的に実施している。

#### 改善のための示唆

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

管理運営は「中期目標・中期計画・年度計画」の点検・評価により、引き続き行っている。

## 改善状況を示す根拠資料

なし

## 8.5 保健医療部門との交流

基本的水準・・・指摘事項等無し

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- 旭川エリアの住民の身体的、精神的および社会的な健康の達成、ならびに教育・地域貢献を図ることを目的として「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」を設立し、行政と連携した活動を行っていることは評価できる。

#### 改善のための示唆

- 学生が地域の保健医療関連部門の活動に参加できる機会を作ることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムにおける事業の一環として、地域住民や小中高生を対象とした教育・学習イベント（資料28）に、本学教員とともに本学学生が毎年ボランティアや実行委員として継続的に参加しているほか、地域医療を担う医師としてキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の地域医療に貢献する人材育成を目的としてWebセミナー「地域における専門ドクター」を開催した（資料29）。今後も、旭川ウェルビーイング・コンソーシアム及び地域医療に関する諸活動への参画・参加機会の増加を図っていく。

教育関連病院担当者会議を開催して、関連施設でどのような保健・検診活動が可能であるかを調査する方針であったが、コロナ禍のためこれが延期となった。次年度はまずこの会議を感染状況を見据えながら開催し、調査を進めていく。

## 改善状況を示す根拠資料

資料28 「あさひかわオープンカレッジ」のご案内

資料29 地域における専門ドクター開催要領

## 9. 継続的改良

指摘を受けた、プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実にを行うための委員会組織については、教育センター内にあるカリキュラム部門の位置づけ、カリキュラム評価におけるIR室の活用とそのフィードバック先の整備など、今後も継続して検討していく。

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 教育プログラムのPDCAサイクルを適切にまわすために、プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実にを行うための委員会組織を設置し、実働させるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会を開催し、教育プログラム評価を行った（資料7）。委員は学外病院の院長、保健所所長、一般市民、本学病院看護部長、本学学生等に加わっていただいた。成績の不服申立て制度の学内検討を進め、異議申し立て制度を確立した。次年度以降はそれを実際に運用して、問題点の検証をしていく。PDCAサイクルをまわすための各組織の見直しを行うことを分野別評価専門部会で確認し（資料1）、それを実行していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料7 教育プログラム評価委員会議事要旨

資料1 令和2年度第4回分野別評価専門部会議事要旨

質的向上のための水準： 評価を実施せず